第６６回宇宙政策委員会　議事録

１．　日時：平成３０年１月２５日（木）　１０：００－１１：２０

２．　場所：内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室

３．　出席者

（１）　委員

葛西委員長、松井委員長代理、遠藤委員、山川委員、山崎委員

（２）　政府側

和泉内閣総理大臣補佐官

高田宇宙開発戦略推進事務局長、行松審議官、佐藤参事官、須藤参事官、高倉参事官、滝澤参事官、山口参事官

文部科学省 研究開発局 宇宙開発利用課長 谷広太

文部科学省 研究開発局 宇宙開発利用課 宇宙利用推進室長　庄崎未果

４．　議事次第

（１）　宇宙基本計画工程表(平成 29 年度改訂)、平成 29 年度補正及び平成 30 年度当初の宇宙関係予算案について

（２）　ＩＳＥＦ２に向けた準備状況について

（３）　ＪＡＸＡ中長期目標の検討状況について

（４）　Ｓ-ＮＥＴの今後の方向性について

（５）　その他

５．　議事

（１）　宇宙基本計画工程表(平成29年度改訂)、平成29年度補正及び平成30年度当初の宇宙関係予算案について

宇宙基本計画工程表(平成29年度改訂)、平成29年度補正及び平成30年度当初の宇宙関係予算案について、事務局より、説明し、以下の議論があった。

○　宇宙関係予算は横ばいの中で、宇宙科学関連だけが大きく落ち込んでいる。宇宙科学の合計を見ていくと、ことしは111億で、去年が137億、その前が170億、その前が204億となっている。国際的ないろいろな枠組みの中で日本の科学探査として、これまで各国の協力を得るために、日本はこうやりますと説明してきたことをほとんど実行できないレベルである。

JUICEとかDESTINY+は、ボトムアップでコミュニティーがこういうふうにやりますということを決めて、開発研究ではなくてプロジェクトとして出なければいけない。ここに予算として8,000万ずつ入っているのは、ボトムアップをやるような研

究者の人材育成が必要で、今まで人材育成に関しては具体的な政策がなかったものを入れ込んでくださいということで、初めて文科省で人材育成の予算としてJUICEとDESTINY+に入ったものであり、この予算には、このプロジェクトを科学的に進めるお金は一切ついていない。

日本国にとって、これから科学技術立国だと言っていろいろな政策をやろうというのに、一番肝心な宇宙政策の科学に関する予算においてこういう事態が進行しているというのは、わかる人が見れば、まさに口だけだということになりかねない。私はこういうことは二度とあってはならないと思っている。

（松井委員長代理）

○ DESTINY+とJUICEについては、その重要性を財務省に訴えて、獲得するべく、本当に最後の最後まで調整、交渉努力をしたが、結果的にプロジェクトとして認めることはできないという結果になった。今、松井委員長代理からお話があったとおり、DESTINY+、JUICEについては、これは科学のプロジェクトともう一つは人材育成の観点からの重要性もあり、その点については、開発研究というレベルではあるけれども、そこは認めようというところは獲得することはできた。ただ、全体として非常に不十分な内容になったということは、おわび申し上げたい。今、松井委員長代理から先ほど人材育成の分だけということであるが、実態としてやっていく上では、開発研究ということで研究自体も何とか進められるようにということで、ＩＳＡＳとも議論をしている。DESTINY+、JUICEについては、開発研究としては認められたと認識しており、その点については、関係者の方々にもしっかり私からもしっかり御説明させていただき、次年度にぜひプロジェクト化できるように進めていきたい。３１年度は、とにかく何とか挽回できるように、補正の活用も含めてしっかり頑張っていきたい。（文部科学省）

○ どうしてこうなったか徹底して調べ、きちんと報告させていただく。いずれにしても200だったものが、CSTIを中心に、科学技術関係予算はイノベーション転換を含めて相当ふえている。これがこういうことになったということは、全体の予算構造の中で何が起こったのかということについてちゃんと分析して、内閣全体の話として整理する。（和泉内閣総理大臣補佐官）

（２） ＩＳＥＦ２に向けた準備状況について

ＩＳＥＦ２に向けた準備状況について、事務局より、説明があった。

（３） JAXAの中長期目標の検討状況について

JAXAの中長期目標の検討状況について、事務局より、説明し、以下の議論があっ

た。

○　方向性として、まさに宇宙基本計画に基づいた良い方向になっている。今期から中長期目標が７年間に延長されたこともあり、７年間の間には社会もいろいろと変革し、当然新たな取り組みも生まれてくる可能性がある。この部分は中にそうした余地も残して記述されているので、書き方としては問題ないが、まずこれを実行するとともに、先を読むということも引き続き行っていただきたい。（山崎委員）

（４）　Ｓ－ＮＥＴの今後の方向性について

Ｓ－ＮＥＴの今後の方向性について、事務局より、説明があった。

以上